

大和名所圖會

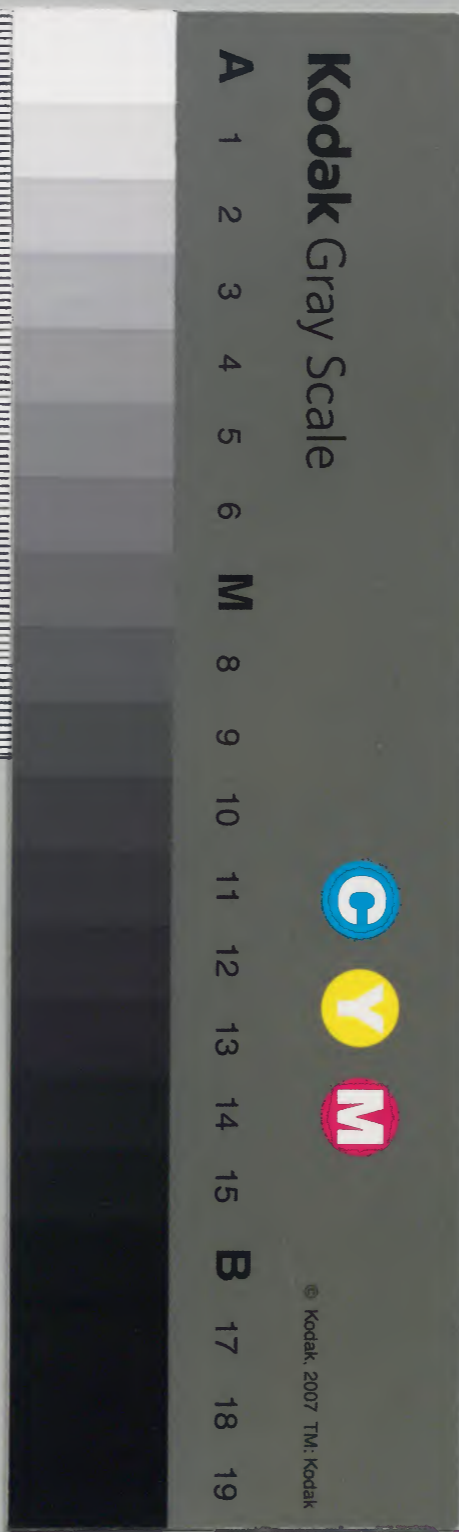
漆上郡

二

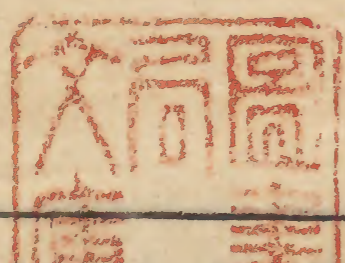
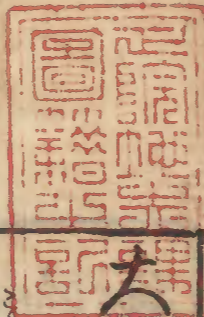
和書門			
二九〇〇二	二九	二	二
號	函	架	冊

內閣文庫		和書	
二九〇〇二	二九	二	二
號	函	架	冊

內閣文庫	
番號	和 29002
冊數	7 (2)
函號	172 205



大和名所圖會卷之二



興福寺

猿澤池

善城寺

後惠屋敷

初宮明神

百萬子

添上郡目錄

華影

采女祠

十三鐘

千坊阪

珠光之茶室

繪魔堂

一條院

衣懸柳

龍燈松

般若寺

祇園社

率川阪

大桑院

楊貴妃櫻

荻野橋

益率都婆

威德井

大井

南一〇八二八

久秀城跡
手分森
飛二弁宅
光明院蹟
裸大師
誕生寺
安養寺
能登川
紀寺
赤枝社
鏡祠
海龍王寺
倭文社

眉間寺
興福尼院
默阿弥宅
可須理井
小塔院趾
傾城所
極樂院
富士権現
鬼界
不空院
勝願院地蔵
元明帝陵
揚梅陵

佐保山南陵
率川社
蘇飯殿所
手力雄祠
豐成公塔
悲田院
御靈祠
道祖神
頭塔
隅夜堂
不退寺
元正帝陵
沽向泉

大石一説七足指
率川の波社
大宿所
阿字卍字所
飛鳥井
紹巴屋敷
元興寺
魚養墓
法多
新薬師寺
法善寺
辰市社
大安寺旧蹟

柏木社
深谷溪
天乃名社
名張川
烽火山
和爾社
藤原
虚空藏寺
人磨墳

真野萩原
平清
長布社
桃香所八幡
宅布世社
穴次社
帯解地蔵
清澄池

中川寺
氷室舊趾
早八飛泉
八丈巖
永井池
崇道皇陵
治道社
菩提山

忍辱山
柳生營
桃香野口
光仁帝陵
和珥池
八嶋寺
龍腹寺
柳本寺



八重様

古今

古

うり

うり

都

の

の

花

咲

う

の

門

の

門

一〇八二八號



Faint bleed-through text from the reverse side of the page.



興福寺

津都小あり一名いり大織冠鎌子官一城國守治郡小新郷上防

里陶原の家小居住し給ひし時けき造営ありしと云ふ

其時齊明二年之秋一説大智天皇御即位年熾室

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

高市郡麻坂小のりし麻坂と云ふ

南圓堂

本尊の不動羅索觀音の安坐を以て同八臂を以て之の形小麻の燈を西國巡礼所光九番之弘仁二年藤系冬嗣公及氏のからりたるの弘法大師と云ふが今も氏族藤系高ののりたるを創りて其時春日明神老翁の遺像を

補陀洛の南の小堂とて之の處より今我こそ人

北圓堂

本尊の弥勒佛の安坐を以て老翁の八月元正元明の兩帝殿とて之を觀するの淨土の八角のこけ敷小堂も八角小堂とて之を並常盤の淡海公の御子小初家北家式家系家とて之に人の公達すしつかりたるとも藤氏より

大講堂

本尊の弥勒佛の安坐を以て老翁の八月元正元明の兩帝殿とて之を觀するの淨土の八角のこけ敷小堂も八角小堂とて之を並常盤の淡海公の御子小初家北家式家系家とて之に人の公達すしつかりたるとも藤氏より

五重塔

五智如來の安坐を以て天平二年四月光明皇太后の所建立を實文記曰塔の高三丈を町小四丈のつとり興福寺四町四方を十六丈を小春日社より塔をくれば林を多むと云

窪辨財天祠

弘仁年中弘法大師大川の各支天小系兼一七南圓堂造立公

一言主祠

俗に聖天宮といふ

花の井

實文の記云東金堂の彫射石 講堂遺跡の礎石の形を彫つたもの

藤

實文記云本堂の左方あり左近の處といふ處の火燈小通と云ふあり

橘

實文記云堂の東方右邊の大金 日記云本堂の辺あり且ハ尺一ツハ

八重櫻

實文記云堂の東方右邊の大金 日記云本堂の辺あり且ハ尺一ツハ

詞花集

いみじのあけれまきの八重櫻をく九重をよほひゆるか 後勢大輔

彩古今

古つとあひふこそそ花橘の清きにあい世々たり よみかみ

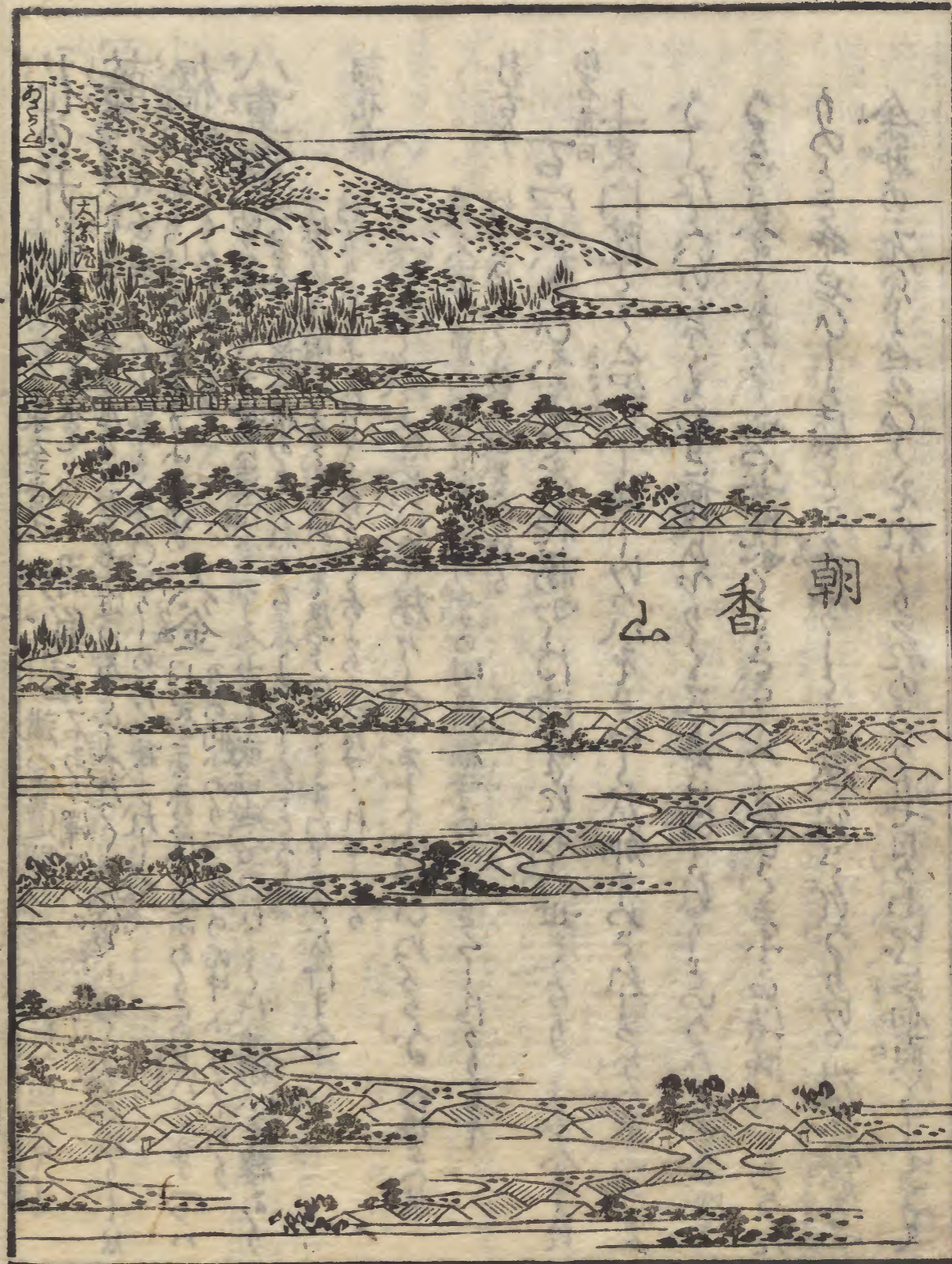
抄名集

上東門院とて后がいはゆる八重をさくが都ふれされり天衆の

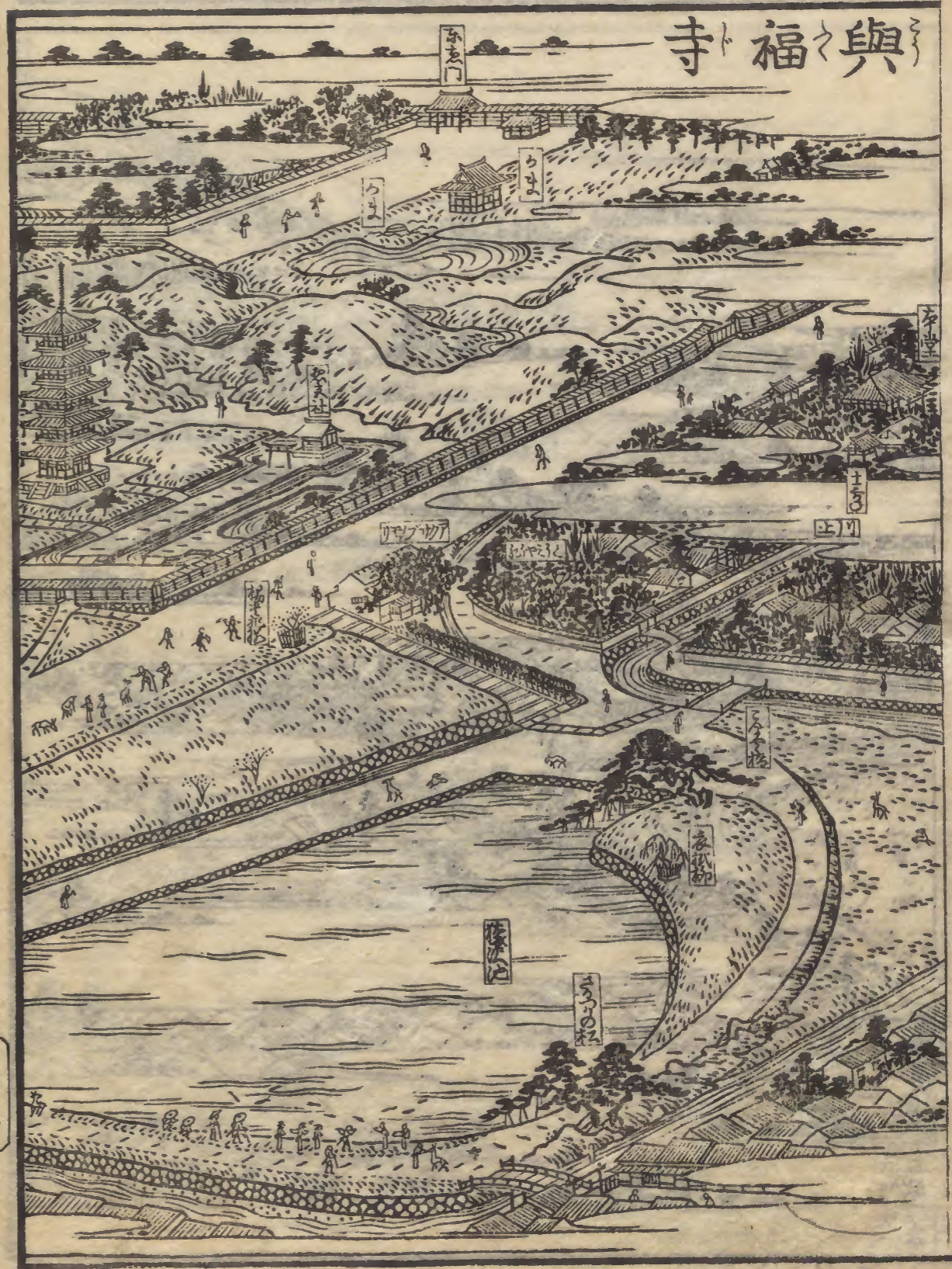
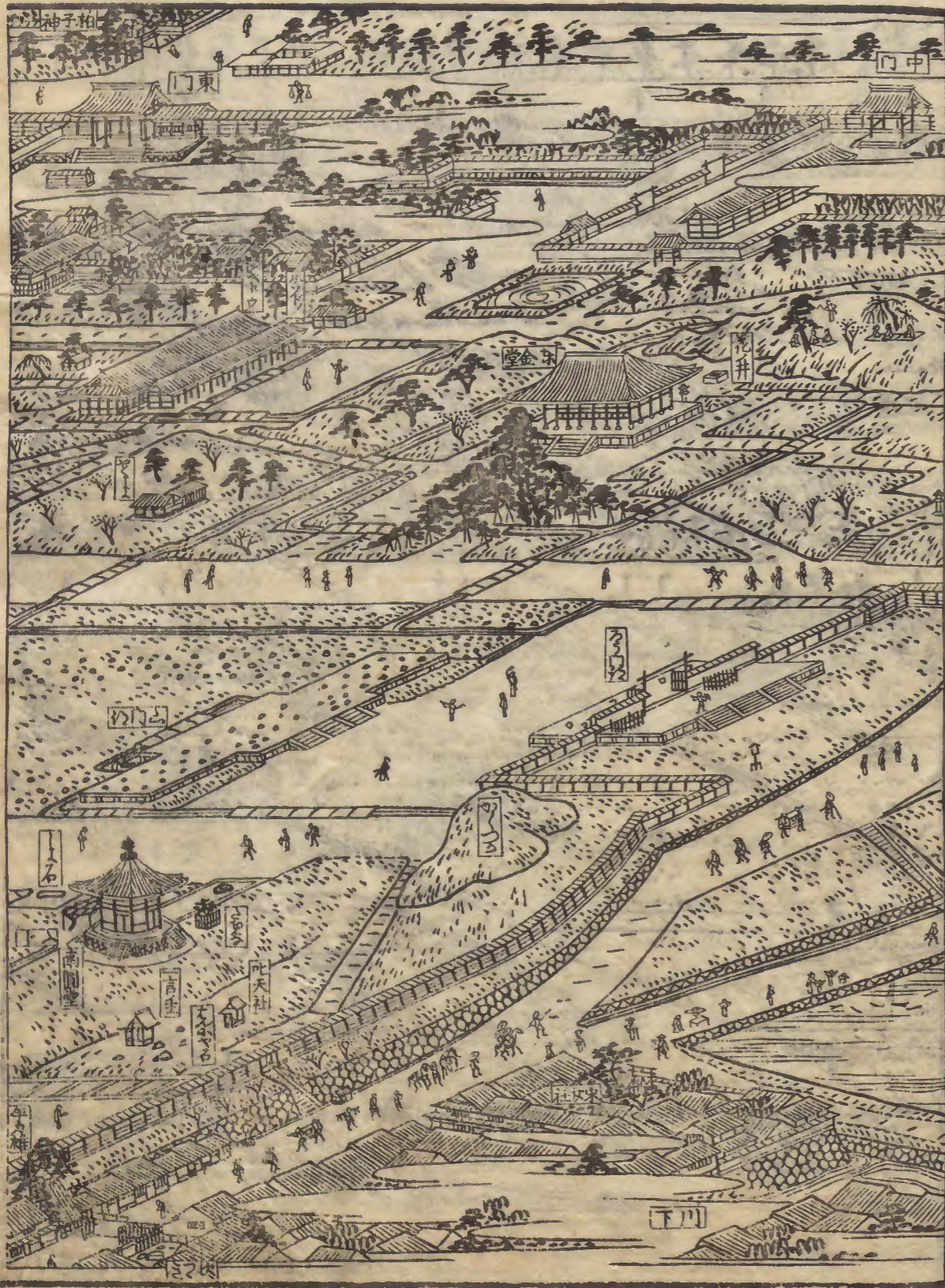
かいたいのちをわき櫻をかりてえきかはりけりといふあかぢらさるひかきわりの女院のいささけいささけ素法師とてわらわりのとてききいへはるこふをぬくく橘をさびりける 後小僧のい余のたふさるひくそれより花のさうり七日あはる相直とてす

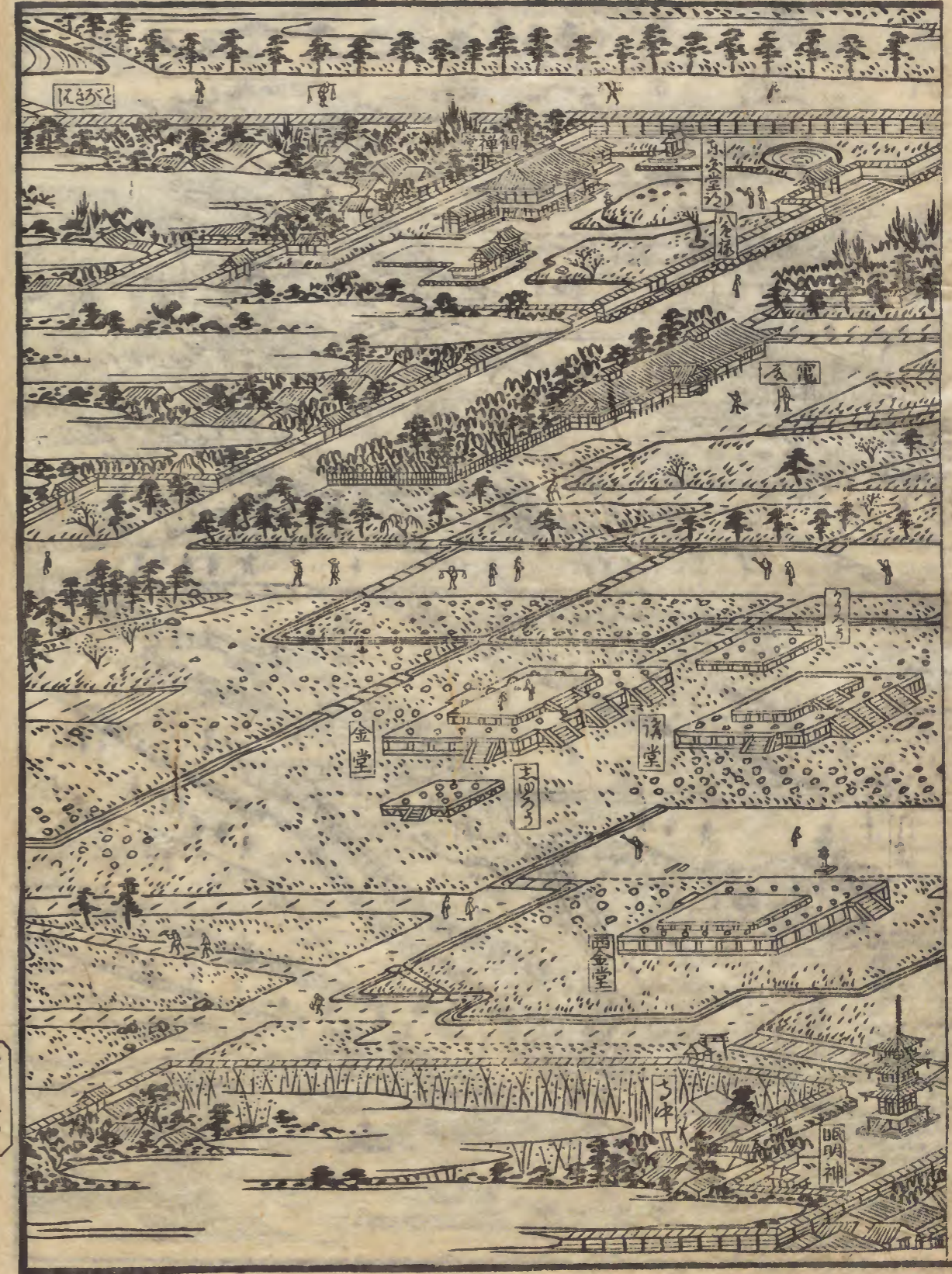


三
牧
子
氏



朝
香
山





らるひつらりありたりし余の店にわらわて花垣のたふらつらる云
今ふけきの願うをわらわすま日お宮の神主祐哉といふ人あり八を振ふつたあそこのが
ていよそう人なる○お振くを香もこたけりたれいとしてたあまそ思ひるは
大内ふげりわげられく其極をそとれるゆきなりか
いとあこりやありたり

八市橋を九市ふらりたれ古た都のまそといへた
とらふらふらふそむとびらる大内へは終なめくそらひく振らうふそくふひらる
かの祐哉の優よやうた人まて撰集のありけり

和歌の浦小つげかろ深きるふそたれぬる人のそそ
とらふらふらふそむとびらる大内へは終なめくそらひく振らうふそくふひらる
候ふらの神主といひけり

花林院 出由坊中松室の西小田あり中庭といふ所松林院の別當永圓傍正
の位あり新へは傍正優にやうた人まて郭公のゆふは
とらふらふらふそむとびらる大内へは終なめくそらひく振らうふそくふひらる

華原磬 泗濱石 貞享記を出由坊一の寶あり
正法院よりありけり
とらふらふらふそむとびらる大内へは終なめくそらひく振らうふそくふひらる

それ當寺の宗意は法相宗ありてむり玄昉傍正傍朝せられ真福寺
小法をらりてけり神皇正統記小載伽藍魏々として七寶をりてそそ
とらふらふらふそむとびらる大内へは終なめくそらひく振らうふそくふひらる

かいつらとる靈佛靈尊のゆいへ威衰記小著いゆとて遠く陽成帝
元慶二年に堂舎傍坊一時に回祿小なるの類聚國史小なるそそ
再建あり厥后火災雷火兵火小罹り焼亡の末朝野詳載帝王編年
百練抄考ふ記一ゆき享保三年の火火より礎のみあり伽藍再建か
えとて南都の大慶めく名をた靈跡をたひ百分ふらりたわやけり
とらふらふらふそむとびらる大内へは終なめくそらひく振らうふそくふひらる

周國既小禾黍漢系芳村生はけりけりけり
一 桑院 新書曰出由院と大桑院といひけるの寺勢微ふそかいたる大平實字
元享記神僧都ふらりゆりゆり今世小僧と當院に定照傍都の造立といや
大桑院 舊の由考曰傳人向大桑院の岷川院の所守守ん治元二月小造立
とらふらふらふそむとびらる大内へは終なめくそらひく振らうふそくふひらる

菩提院 貞徳寺あり大内の東小橋あり大御堂といふ人本尊の无量壽佛右の方
位に我道心向登はけりけりけり一桑院の所守小朝彼上人といひける菩提院小僧
とらふらふらふそむとびらる大内へは終なめくそらひく振らうふそくふひらる
二年三月十八日小寺子あり我死にんは棺小藏り麻也園の松の上小とて七日小経
ひらりて人といひて懸けり上人ありて七日小ありて棺小ひらりて小金也生身
の十一日初葬ありて七日小ありて七日小ありて七日小ありて七日小ありて七日小あり
いづれに觀るを念し補陀洛といふけりて内分子に若むいひるとかや一麻也園起

薪火能

紀事二日

南上人内ふ於て薪火能の
ろくろの真後三月の
法会表法うれを寺僧
春キふ堪へく内ふ
於て薪火能其光小能て
佃優でる長衣の戯る
其は四座の様ふんて
あし二月七日より
十四日に至るまで
紙が若く雨の降る
るが様は紙
湿るが付くも
うりし時あやそ



能あり九月十日の
五日四座を
おあそ

舞入る
采女や
柳
凍体



猿澤池 眞福寺の南の池なり其池の縁横池なり
大和物語 猿澤池は名ありて猿境に池をふあり猿沢の名なりて道の傍なり

しつゝあきの所はほろりて米女もろり白鳥もろり
よひ夜上人もろりひつれしむらりそのあひるに
たれおふもひさしりしつにりて後すむらり
あひる秋もろりさして冬もろり
世もろり地もろり人もろり猿沢の池もろり
ほろり所もろりえもろりけりもろり
園もろりけりもろりあもろりけりもろり池のやもろり
給もろり人もろり奇もろり給もろり人凡

つれもろり移もろりて猿沢の池の玉藻とろり
とろりの所もろり
猿沢の池もろりけりもろりけりもろりけりもろり
とろり給もろりけりもろり池もろりせもろりけりもろり
けりもろり

采女祠

猿沢の池に猿沢あり元要記曰興南院権僧正映祐勸修寺といふ
衣掛柳 右樹とろり小樹とろり後人秘傳といふ

楊貴妃櫻

猿沢の池にすしむらりてまもろりけりもろり
楊貴妃櫻 日所ふありむらり眞福寺ふま宗法師といふあり

轟橋

東大興福兩寺の中向押明の門に
轟橋 南ふあり 十二鐘 猿沢の東

雲井坂

村雨の晴向小池よま雲井坂こまのこま花ちりけり
雲井坂 北ふあり 龍燈松 葯菖橋 共ふ十こまのやり

佐保川

今を家所好蓋船小至付還小石橋ありけり下流といふ
佐保川 今を家所好蓋船小至付還小石橋ありけり下流といふ
金葉 昔今 花やろりけりもろりけりもろり



万葉
あまの
かほち
けし道
ゆたあ
宅守



奈良坂
般若路
酒寄在家

般若寺





佐保川



後赤松百番お合

あの上

ふのみ

ひけ

佐保川の

と名の

あは

とわ



奈良坂

南都北の入口なりは所也

般若环

又般若路とも云ふ

南都小も老あささし七の余人を般若路二所の道なる切掛橋

逆後本公引くはつらるる後平家四万余路なる小分も奈良坂

般若路二所の城郭小押ありと云

善城寺

奈良坂村西側小ありは化禪院なり一東大寺乾の二院之礎石今も在り

春日社

社名延喜式神名帳曰奈良良豆比古神社一座之土人主神といふ例を九月九日

函石

春日社左側小あり是尋元明帝の碑石なり一藏室に雍正長峯小あり

般若寺

般若寺西側小あり聖武帝の所建立し一勅書の大般若経の地蔵

本尊文殊大士の化

十二重石塔婆 廿五菩薩 石像

般若寺

般若寺西側小あり聖武帝の所建立し一勅書の大般若経の地蔵

般若寺

般若寺西側小あり聖武帝の所建立し一勅書の大般若経の地蔵

般若寺

般若寺西側小あり聖武帝の所建立し一勅書の大般若経の地蔵

観音堂

本堂の傍小ありは堂の延徳二年の火災の免也

蓋率都婆

般若寺の東側小あり石柱を左右小なる九小諸の堂

藤原頼長墓

七月十一日謀逆の時流矢中し同日を去る小なる死に年三十七

千坊坂

般若寺の南小ありは東北に賀國に至る

北の十八間戸

真若院町の北小ありは真若院の遺蹟なり

阿闍寺

真若院町の東側小あり本尊阿闍佛光明と云ふ

空海寺

真若院町の東小ありは空海大師の遺蹟なり

後惠屋敷

日所の南成福院小ありは後惠

後惠屋敷

日所の南成福院小ありは後惠

後惠屋敷

日所の南成福院小ありは後惠

後惠屋敷

日所の南成福院小ありは後惠

後惠屋敷

日所の南成福院小ありは後惠

後惠屋敷

日所の南成福院小ありは後惠

後惠屋敷

日所の南成福院小ありは後惠

後惠屋敷

日所の南成福院小ありは後惠

後惠屋敷

日所の南成福院小ありは後惠

珠光之茶室

蓋河土門氏の家小あり珠光茶室なるを造りて其後其後有邪歸水明とて新小居に於て茶室永保の火火

祇園社

宮後所小あり其後其後有邪歸水明とて新小居に於て茶室永保の火火

威徳井

押上町東側人家の傍小あり又従光井とも書む小所小あり

初宮明神

田楽法降けおろそそ養をわお勤むといふ

佐保殿舊蹟

冬嗣大は家と云ふ

尼池

中筋町西側人家の裏小ありおつていふ大池なり

韓神祠

高天町の西側人家の裏小あり

牽川坂本陵

四月九日崩す人皇九代開化天皇の陵

鹽瀬宗二跡

林小筋町小あり宗二源中華の意あり

百萬過子

林小筋町西側中筋より西に至る所なり

燭魔堂

法蓮村小あり正觀法安堂並共小基の化といふ

蛭子社

北市町小ありいけ所小

大井

所新側人家の裏にありおつていふ弘法大師の堀といふ

松永秀城趾

姓實肝俣藤がうして享祿のほ長慶に任執権といふ

眉間寺

村上新小あり佐保と号し律宗小して聖武帝の所願之長寛年中

相従々々日本小はり姓小筋町と改む初小所小あり

後頭屋本といふ

節用集に撰に

西平蓋町者側小あり初小松永秀秀方居城多門と小あり其れ

松永多門大と号し後世松本と称す

或元日小六月十日見

假面とて今小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり

小所小あり



善城寺





とく
眉間寺

多門山々
松永久秀の
城跡

手分森 下二條町南柳小ありのり一神城野回二韓退治の時住吉大明神と大將

率川祠 子守町小あり土人子守社と云々延喜式曰率川望大社御子神社二座云

率川系上西日比系春日系のわろ言をわろる神祇今小のころ二枝をよと

撰集抄云 下二條町西月小ありのり一合氣解云二枝をよと云々酒躰小持

率川社春日の社社小ありのり一のり二のり三のり四のり五のり六のり七のり八のり九のり十のり

白川系七首 白川系七首

率川阿波神社 西城戸町小あり 延喜式出

道六宅 平城趾跡白小川町東側北の端川の側社家なり入道云々其姓氏と云々

飛小二良家 小記云角藤の南四丁の甲藤家なり小三存を時代後云々俗傳云

黙の弥宅 同家伝はのる聲順昭に仰る史代と存令のゆき道云々其家教は

餅飯殿町 利家八月廿日小始と落の供所は持げしりは名あり又餅飯殿といひ

大宿所 餅飯殿町小あり通照院と号に若月津系小頼長谷川堂あり

光明院遺蹟 日所為光明院西の小御小地蔵堂

可須理井 橋本町小あり弘法大師の塚あり

手力雄神祠 日所小あり 深井 下河内町

阿字元字町 下河内町の小あり元真寺の

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

一院の遺跡あり

裸大師

高僧門會所小あり弘法大師の作と云

小塔院

姓新田小あり元貞寺の上院あり護命傍正の位あり新之

法師小住を拜と小く昔は法師の大衆ありあひ月の上は... 頭上た又一粒を得たり靈異類記に天長四年傍正... 終る其時法樂院内小けり... 傍正の製成化一故小... 忍を味嘗と云人著集集云式ア大夫敦光初官のり...

豊成公塔

四の曲考を有初高塔小あり... 飛鳥井 白のこけ子有例巽隅民家の奥小あり...

誕生寺

誕生寺と号し今女僧住職に

誕生水

誕生水あり

飛鳥井

白のこけ子有例巽隅民家の奥小あり...

誕生寺

誕生寺と号し今女僧住職に

誕生水

誕生水あり

南都の傾城所は本は過つて... 虎藏竹翁と云二人の奴あり秀吉公薨去の後...

そかいはる竹翁其須南都小住一姫氏の孝子とあり...

蔵後一條之御所小住居公は其時の全盛なる...

らひ寛永二年に有初小あり傾城郭は新詔一...

悲田院 有城戸町東側小あり... 安養寺 三棟所小あり...

紹巴屋敷 有初所美祠の巽は方と有初也志之紹巴...

極樂院 本寺は智光法師感保の曼陀羅あり...

御靈祠 有初所美祠の巽は方と有初也志之紹巴...

元興寺 日本紀曰推古天皇四年小聖德太子守屋で...

飛鳥寺 有初所美祠の巽は方と有初也志之紹巴...

大田寺 有初所美祠の巽は方と有初也志之紹巴...

長谷寺 有初所美祠の巽は方と有初也志之紹巴...

鳥声非故國
春色是他郷



花の陰
楓小
旅度
わか



元興寺
おん
鬼
女
英
い
あ
の
お
の
名
葬福



元興寺
御霊社





能登川

大和志曰名の原春日山の東南一七八年畠紀家

有枕

此川の源は山部村の東より一里北に流るる也

山部村

富士権現祠

京後村の南に在り傳云初に修智春日二神を奉祀

道祖神祠

今御門町に在り祭八月七日

朝野魚養墓

十編院町十編院の趾蹟に在り

遣唐使の

日本小塚の妻小塚日と遣唐使の跡に清見寺あり

その地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

其の地は小塚村に在り其の地は小塚村に在り

頭塔

大和志曰清水町に在り俗傳之僧玄勝

清水

中清水町に在り人の家裏に在り五月五日天満宮祭

紀寺

紀寺に在り大和志曰清水町に在り俗傳之僧玄勝

鬼界

鬼界に在り大和志曰清水町に在り俗傳之僧玄勝

尾

尾に在り大和志曰清水町に在り俗傳之僧玄勝

赤穂神社 下る畠所者作ふあり神燈臺石小

不空院 不空院け子末東側ふあり僧鑑真開基一とひ

隔夜堂 二入の毎日長谷寺へ奉養しつてつりつたは堂と長谷寺とあり

新薬師寺 不空院け子末側ふあり神順礼記曰聖武天皇御眼が癒せり

鏡神祠 大和志曰新薬師の末ふありを承け

勝願院地藏堂 右近衛権中將在原躬若平城天皇之孫阿保親王之五男也

不退寺 不退寺村ふありを承業平の末ふあり

法身寺 光明皇后は法身寺に御坐りて

横笛堂 横笛堂の建門院の神司横笛の

海龍王寺 法身寺の東北の方之律宗天平二年光明皇后の建立

元明帝陵 法身寺の北ふあり

元正帝陵 法身寺の北ふあり

辰市社 大妻村の末ふあり春日記云辰市社二社俗に徳の宮と

倭文社 法身寺の北ふあり平城天皇の

Handwritten notes in vertical columns, including names like 新田, 楊梅陵, and various descriptions of the sites.



不退寺



信悠
 海の
 秋の
 風
 暮打



金糸細々垂香餌
 錦鯉悠々弄直釣





玉葉

十日新小

たけ

おくれ

さつは

つり

りんや
うん

常盤井入道
前大政大臣



海龍王寺





古閑泉

居村小津

散木集

建保百首

居の市賣同の清水涼しくてる心いある心地ききれ

後撰

大安寺舊趾

大寺と名づけ高戸の地よりして大官寺と改じ和銅二年伽藍佛像

初の名姓凝精舎とて其後百海のやより小川より百海

大寺と名づけ高戸の地よりして大官寺と改じ和銅二年伽藍佛像

大寺と名づけ高戸の地よりして大官寺と改じ和銅二年伽藍佛像

大寺と名づけ高戸の地よりして大官寺と改じ和銅二年伽藍佛像

大寺と名づけ高戸の地よりして大官寺と改じ和銅二年伽藍佛像

大寺と名づけ高戸の地よりして大官寺と改じ和銅二年伽藍佛像

大寺と名づけ高戸の地よりして大官寺と改じ和銅二年伽藍佛像

大寺と名づけ高戸の地よりして大官寺と改じ和銅二年伽藍佛像

大寺と名づけ高戸の地よりして大官寺と改じ和銅二年伽藍佛像

宇治の地

今むうあつの大安寺の別當よりける傍の女けり小倉今より人

の思ひ七つ入程ふさく思ひのりねとてい蓋もあつりあつり

をる程しよりける後だ俄に家あつり小寺の人をみてあつりあ

いさるこもやんとあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

つりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

銅の湯がやけりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

のむとあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

あつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあつりあ

のふもわく入事てはきふるものおからふ小社わろわをんかくん
ゆるとゆるきんをくおねえを娘の思ふさも矢ねねる地わね中
まもわくををりておね其後はわろわくさゆるをりふけを

柏木杜 柏木村小

王吟

お枕名あ

おろれと葉りのけやひつらん志ゆるゆる柏木の葉 家隆
柏木の森のわらわら捨て清笠のふし我をさふたり 公則

後拾巻

後拾巻

春雨のふゆがくもほろりたる柏木の杜ありりのか 馬内侍
さかて時雨とてはふりて霞乃落る柏木のりり 土御門院

日

真新萩原

風雅

新撰名新集上耶云云

柏木の葉は下叶おひの世にゆる思ひあわさるを思ふ
いとわろ大和へくるを思ふのはねをた系も物てゆん 人丸
我を又知人も志る常のはね秋もた露もりうとさ 後系極

乙系集

分りし神小萩をさるるをさるる相小朽ねるはね 萩系 西乃

井蛙おの真中同名たり 真中補はけ入に道の國はのかや系と陸奥よりこし國

中川寺

系安延延一層塔あり

同基ハ由門實靴りう

後系諫議右大臣

の北とていふ人へ一社に霞小アこひく加藍は系創一成身院と名つけし

忍辱山

系二里とて忍辱施村小あり

真言宗ありて園成寺と號し

同基ハハの一の虚麗和尚あり

正堂護摩堂多寶塔昭堂寶藏

浴室あり寺前小ニ橋あり

高橋唐橋ふとい入僧院二十四字

遊園地あり

源谷川

喜多村の路傍小あり

清澄井ありてり人の湯を止む

平清水

狭小あり

氷室舊跡

柳生營

天乃石立神社

夜支布山神社

四十八端

枕香野の口 枕香野村より名張川に
 名張川 枕香野村より名張川に
 名張川 枕香野村より名張川に

名張川 枕香野村より名張川に
 名張川 枕香野村より名張川に
 名張川 枕香野村より名張川に

光仁天皇陵 東田原村小あり陵考小宮字塚之村人皇四十九代光仁天皇の陵
 光仁天皇陵 東田原村小あり陵考小宮字塚之村人皇四十九代光仁天皇の陵

宅布世神社 今八幡と称す
 宅布世神社 今八幡と称す

永井池 永井里北庄村小あり八幡と称す永井里大和國
 永井池 永井里北庄村小あり八幡と称す永井里大和國

和耳池 常解の所なる池の方あり
 和耳池 常解の所なる池の方あり

和雨里赤坂古神社 今天王と称す
 和雨里赤坂古神社 今天王と称す

穴次神社 古名村小あり赤名と称す
 穴次神社 古名村小あり赤名と称す

忍辱山 裏門

古物も八聖武帝神所領
 定朝の他延喜の以益信
 和為を洛より移りて
 文正の以をよめてて
 神楽弘ら開創す
 達す

明皇水毎茶四月
 十四日より七月十日
 井とを俗小同は
 及を俗小同は





正愛炎天暮日類
飛蚊擾々復如雷



蚊
夕
常
規





ナ
キ

山提菩



かといん
心替ち
惣門ち



崇道天皇陵

古市村小ありは天皇の極武事の皇孫の野原の早良親王と云々
 國小ありは野原の早良親王の野原の早良親王の野原の早良親王と云々
 和國は陵に収めしはと水鏡小ありと云々

名山寺

今寺にありは崇道天皇の極武事の皇孫の野原の早良親王と云々
 村の名は八幡郷小ありは崇道天皇の極武事の皇孫の野原の早良親王と云々

帯解地藏

今寺村小ありは崇道天皇の極武事の皇孫の野原の早良親王と云々
 俗小帯解ちと云々

佛靈社

今寺村小ありは崇道天皇の極武事の皇孫の野原の早良親王と云々
 佛靈社小ありは崇道天皇の極武事の皇孫の野原の早良親王と云々

其貌を道とて安んずる若きものやうけい

今寺村小ありは崇道天皇の極武事の皇孫の野原の早良親王と云々
 其貌を道とて安んずる若きものやうけい今寺村小ありは崇道天皇の極武事の皇孫の野原の早良親王と云々

是則惟仁親王と云々

今寺村小ありは崇道天皇の極武事の皇孫の野原の早良親王と云々
 是則惟仁親王と云々今寺村小ありは崇道天皇の極武事の皇孫の野原の早良親王と云々

わりの平産神歡の寺のれども常解すと號と賜と俗人たかきけり
いふ里か今市と我々あけあり

和爾下神社二聖 横田村と標中村といふあり 治道天皇と称は
神名張二出

龍腹寺 神殿村

奇異雜談集のあり

しうしふふふ小目かかこて照ける後小あひれをばまの標かたるこひ秋の
實かやうへふふわびと雨の所下法每八歳を修らねるふ人形を我か
しつる標よりと今かやうしう光後只ひとりゆり標所ふじうひ龍女
成伴の文心肝小糸下龍宮城といひ成伴土に思ひさかたけ報せふれ
雨かまよせんといふとやとねもつれ小龍之大龍王のゆかてまよる海を
してまよるぬま今か言ははとよしく菩提よまのるん今かあはる
もよとく華よりとあかいつか今か捨く雨かゆのせん菩提の標所よ
はらまのといひもそねたまごり着の虚空一をわかれけ凡暴に
やちちて雨車軸のやく泉舟艦といふる色人氏轍魚乃こ

井の水か求め菟をの一天れま小細かりひあり雨晴を清くあうふ
ふいのるんかかきけりるも夥を響りありやとるれ龍といひ
らねとあはるりるるるん心か菩提をく龍頭寺龍尾寺龍腹
寺といふこ寺かまきこまきひるん今の龍腹寺其一つこま云

虚空藏寺 清澄在虚空藏村の本なる虚空藏菩薩弘法大師也 通院有無の
東寺修起也

虚空藏の弘法大師求圓持法勒終の時明星圓伽弁のりて京都岩洞
小涌出て靈驗掲焉より小井管源く信かこく精舎か造立た尋大師

自本か初み虚空蔵の像か造り銘額かゆてを居たうら付寶く
のりて實ある直雅真然真紹多相續く位職は定ま小所 聖 止く
真雅の儀か清くけすまか管領の向みか多る像に花を並く小玉の
像か初に割く安ん平一永代に跡相承のますかかか人

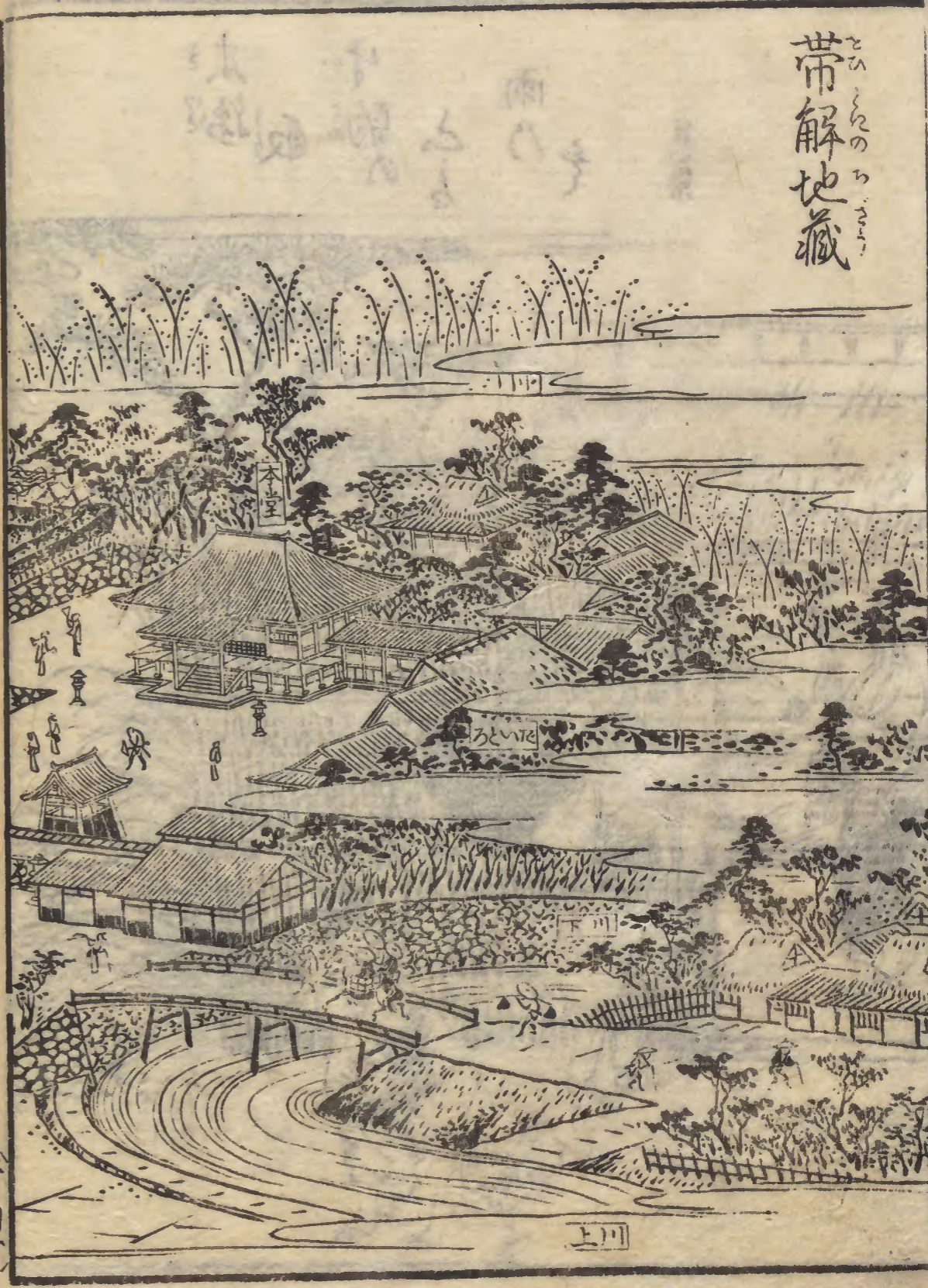
清澄池 其梅村あり其水清くして
庭門百首

あふふ小まもふりれねと標の教をいふこ清澄の池は根根神

其角
雨乃
山
牛の
駒の
取
本之
孫

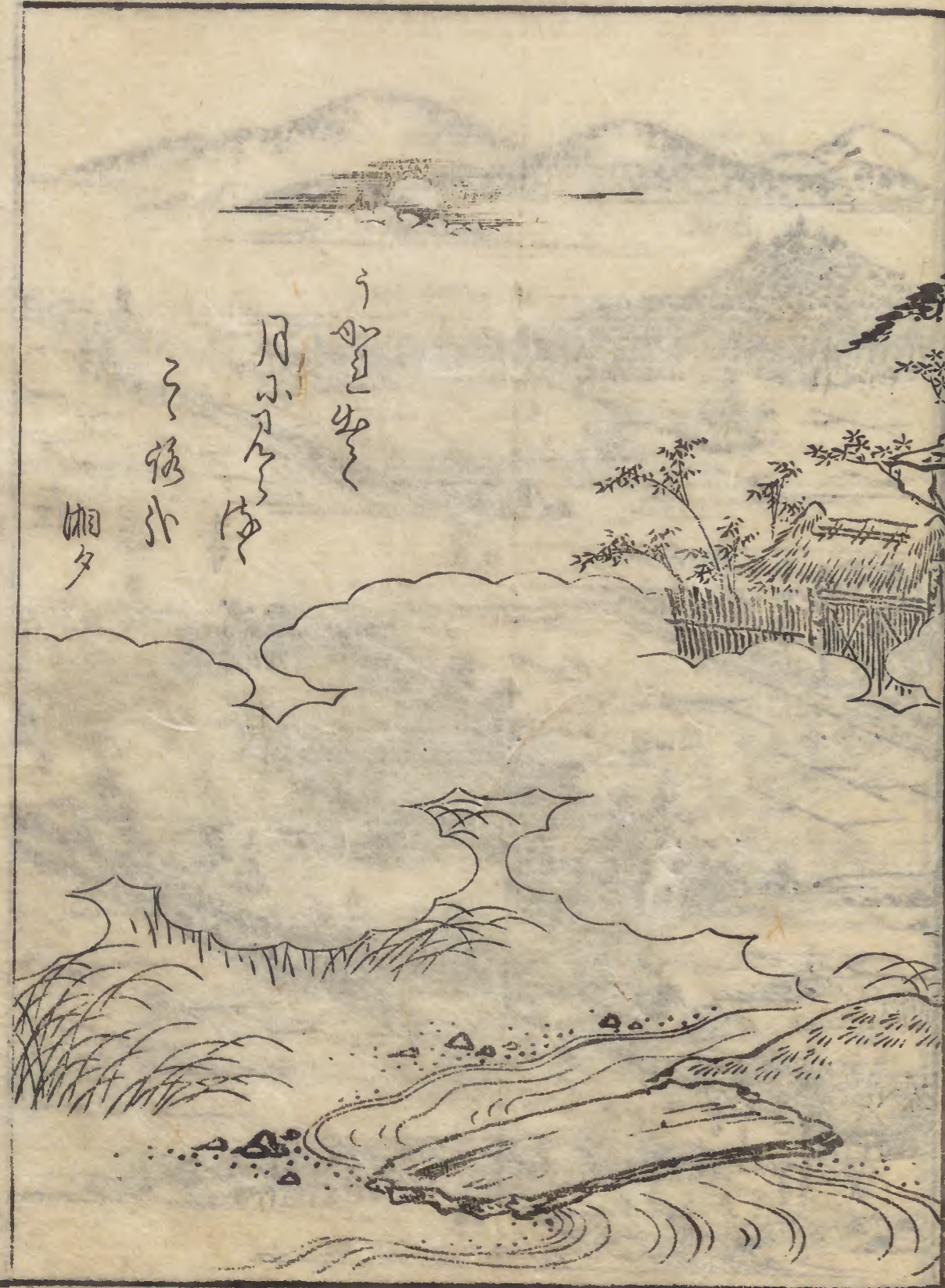


帯解地藏 とひくわのちぢざう



上川





うららかな
月小
夕
夕



秋の夜
ふあき
ふあき
ふあき
ふあき
ふあき
ふあき
ふあき
ふあき

柿の原



菩提山正曆寺

奈久ら一里あり巽椿尾村の西あり

本尊薬師佛

龍樹菩薩の化せり... 建保の信圓大僧正再真あり... 尋其再建ありと當寺旧記に云く

柳本寺

柳本村

人丸塚

當寺ふあり石碑あり歌家と書記... 相國寺の大曲律師... 主三位藤原家隆卿撰

青陽のまはれ

長く吹く大和國流上郡石上寺のやうり治道のまはれ

長く吹く大和國流上郡石上寺のやうり治道のまはれ

る家木本を葬り身と龍門の土を埋むといふも云葉は風國乃

寶とてしりて可惜可悲云々

後永清補朝臣家集云

大和國石上村をちとて人丸塚あり... 王葉

むらたけともをさうりける歌を其下ふもさうりける

其後村のものとあや... 鴨長明無名抄曰

人丸の墓は大和國小あり初瀬なる道あり人丸塚といひく

王葉

ゆるた迹は昔の下やそら... 或記云文明の初つて

或記云文明の初つて連歌師宗長この所

ゆるた迹は昔の下やそら... 権とあわくふとくとも

権とあわくふとくとも

吉野指日記云... 道通院西二条... 右大臣實隆公

吉野指日記云... 道通院西二条... 王仁二十二年二月廿六日

け所にはうとくひ

ゆるたのまを葉をまはれ

猶葉和詞集云

ゆるたのまを葉をまはれ

ゆるたのまを葉をまはれ

大日本史曰

顯昭法師人丸勘文云藤原清輔後二條帝御代人嘗過大和

故老言漆郡石上寺傍有祠号治道社祠邊寺號柳本寺是人麻

呂所建也祠前小塚名人麻呂墓清輔往觀之所謂柳本寺礎石

僅存人麻呂墓高四尺許因建率都婆勒曰柳本朝臣人麻呂墓

顯昭按人麻呂没于石見豈移其遺骸於大和耶如平惟仲率于

宰府移其屍于洛東白河



大和名所圖會卷之二終

